

S-TEAM 教育推進事業 「STEAM」 推進プロジェクト
外部連携支援事業（学校活用型）実施報告書

学校名	北海道佐呂間高等学校
実施日時	令和5年11月9日（木） 8:50～15:05
講師	<p>（所属） 佐呂間漁業協同組合 （職・氏名） 代表理事組合長 阿部 與志輝 氏 （所属） （株）トップファーム （職・氏名） 代表取締役副社長 井上 和明 氏</p>
実施概要	<p>1 ねらい</p> <p>(1) 佐呂間町の自然、資源、郷土の素晴らしさを再確認するとともに、豊かな自然を今後も維持していくために必要なことについて、SDGsの視点も取り入れながら、探究的な学びの充実を図る。</p> <p>(2) 地域と連携した講師と教材、佐呂間で育てた食材の提供により、生まれ育った故郷に誇りや感謝の念を持つとともに、地域課題の発見及び解決に向け、教科等横断的な学びの推進を図る。</p> <p>2 日程</p> <p>11月9日（木） 8:50～15:05</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1校時（8:50～ 9:40）講話①「ホタテの歴史とこれまでについて」 ・ 2校時（9:50～10:40）講話②「トップファームの活動について」 ・ 3～5校時（10:50～14:05）調理実習、食器洗浄、片付け、清掃 ・ 6校時（14:15～15:05）感想、まとめ作成 <p>3 講義、実習等の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的な探究の時間で、佐呂間町の食文化体験を実施した。 ・ 佐呂間町の漁業、畜産・酪農業に携わる方から、養殖や酪農の実際、苦労や工夫についての講話を聴講した（養殖の歴史、流氷との戦い、アイスブームについてなど）。 ・ その後、佐呂間高校内の調理室において、提供していただいた佐呂間町特産のホタテ、牡蠣、サロマ牛を使用したメニュー等を生徒が考案し、調理、賞味した。



4 成果（生徒・教員の変容及びねらいの達成状況等）

地元の酪農業及び漁業に携わる企業からの講話と、地元の食材を自ら調理して食する体験から、最先端の技術を導入して経営に取り組んでいることや環境への配慮を行い持続可能な社会の維持に貢献していることについて、生徒が理解することができた。特に講話の中から、自然環境保護やSDGsの視点についての理解が進んだ。佐呂間町内に生きる高校生として、地元の発展のために何が必要なのかということについて、自ら考える姿勢を育むことにつながった。

また、生徒が社会を形成する一員として、郷土愛や地域への愛着をより強く持つとともに、教員も外部折衝やその調整業務を行うことで、地域との連携の必要性やその効果について理解を深めることができたことから、当初のねらいを十分達成する取組となった。